

9月1日は防災の日!

災害への備えは万全ですか? 巨大地震への備えを考えましょう!

自助

まず自分自身の身の安全を守ること

町の広報紙やホームページなどで自助に役立つ情報を発信しています。
日ごろから「自分の身は自分で守る」意識を持ちましょう。

避難生活に必要な食糧などの備蓄

支援物資が届くまで、家族が1週間食べられるだけの食料と生活用品の備蓄をしましょう。

家庭での備蓄品セット(例)

- ・飲料水(1人1日3リットルが目安)
- ・非常食
- ・電池
- ・衣類
- ・貴重品
- ・救急セット
- ・携帯トイレ(1人1日5回が目安)
- ・トイレットペーパー
- など



各家庭の事情に合わせて、アレルギー対応食や常備薬なども備えましょう。



災害支援情報の取得



二次元コードから地域安心メールを登録できます。
災害時の情報収集はとても大切。事前に登録しておけば町から防災・防犯情報が届くようになります。

東郷町の地震対策補助事業



感震ブレーカー(簡易タイプ)購入費補助

地震発生後の通電火災を予防する感震ブレーカーのうち、「簡易タイプ(パネ式・おもり式)」の設置費を補助します。本体価格は4,000円程度で、その費用の半分(上限2,000円)を交付します。



家具転倒防止器具取付補助(対象者制限あり)

たんすや本棚などの家具に家具転倒防止器具(固定ベルトやL字金具)を最大4つまで無料で取り付けることができます。



1923年(大正12年)9月1日に関東大震災が発生したことに由来して、毎年9月1日は「防災の日」と定められています。防災の日を迎えるにあたって災害への備えを考えてみましょう。

災害への備えを考えると、「自助」「共助」「公助」の3つに分けることができます。

「自助」「共助」「公助」のうち、皆さん自身でできるのは「自助」と「共助」です。一人一人が、「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えを持ち、日ごろから災害に備えておくことが重要です。

共助

地域の人やコミュニティ、ご近所といった人たちが協力して助け合うこと



地区防災訓練

各地区の防災訓練では毎年、自主防災組織の皆さんを中心に消火訓練、煙道訓練、救命講習、防災講話などいざというときのシミュレーションをしています。



町防災訓練

町が実施する防災訓練では、「避難者が主体となって避難所の運営をする」ことを想定して訓練します。想像しにくい避難所の生活を疑似体験してみましょう。

消防団

近所にお住まいの皆さんの中には、消防団の役を引き受けていただいている有志の人たちがいます。そんな皆さんは忙しい生活の合間を縫って操法訓練を実施し、地域防災力の向上に尽力しています。



公助

町や県、消防、警察、自衛隊など公的機関による救助・援助

災害発生前は防災意識の啓発などを行い、発生後は現場出動など、職務として住民の生命・財産を守ります。



水防訓練

災害が発生してしまったら、町職員も現場で対応できるように、土のうを積む訓練や災害時にも役立つロープの結び方を学ぶ訓練などを行っています。また、備蓄品の準備や協力企業などと災害協定を結んだりするなど、有事に備えています。